

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400037		
法人名	有限会社 ふなびきメディカル		
事業所名	グループホーム ほほえみ犬山		
所在地	〒484-0064 愛知県犬山市前原西 3-33		
自己評価作成日	平成26年11月23日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のペース(例:食事・居室での過ごし方等)を尊重しながら、お一人お一人の「できること」を見極めて、それに添うケアに心がけています。併設施設のクリニックや在宅看護との連携により医療面でのサポート・緊急時の体制が充実しております。生活環境の整備にも心がけ、皆様が穏やかな気持ちで過ごしていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全体的に利用者の介護度が高いホームであるが、利用者一人ひとりの機能が活かせるように、目標を持って前向きに取り組んでいる職員が多いように見受けられた。二つのユニットは両方行き来出来るようになっており、食事やレクリエーションの際は、合同で利用者も交流を深め楽しいひと時となっている。利用者の重度化に関しても看取り経験の職員がいることや、医療面では、法人の医療機関が隣接しているので、家族からも安心であると喜ばれている。今後は、ホームの周りに住宅が少なく地域との交流は難しい立地条件ではあるが、地域に根差したホームになるように地域住民と関わりを持つよう心掛けている。また、歩行困難な利用者が多いが、外出の機会を設けて外出支援に力を入れようと前向きに検討しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

平成26年度

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入所者個人の生活スタイルを尊重し自分の家との生活に近い日常を送れるようカンファレンス・申し送りを通し情報を共有する事で日々の暮らしを援助できるよう取り組んでいます。	理念をフロア内の目の届くところに掲示し、職員の意識を高め共有を図っている。申し送りやカンファレンスの際に、理念に沿った支援が利用者一人ひとりに出来ているか話し合っ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において地元自治会、老人会等に参加を呼びかけている。自治会の年間行事に利用者参加のお誘いもある。(8月夏祭り・自治会ウォーキングなど)	散歩の際に施設向かい側の幼稚園の園児に手を振ったり、すれ違う住人と挨拶を交わしている。自治会の防犯パトロールに職員が参加協力したり、区の夏祭りに出向くなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の見学・来設を自由に受け入れている。認知症に対する問い合わせは来設者への簡単な説明程度にとどまっている。支援の方法・助言の発信までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書を作成し、家族、市、自治会、ゲスト、出席者・欠席者に配布している。会議内で出された意見はミーティングにて職員全体で話し合っている。	会議は、主に市長寿社会課職員、家族と職員の参加により行われている。毎回議題を設けて開催され、ホームの活動報告には参加者から、意見や助言を受けて、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との情報共有が密にとれるような環境を目指している、犬山市より介護相談員を3ヶ月に1回受け入れている。	日頃から市役所の担当者と連携を図り、ホームの現状について周知して貰えるように電話相談している。市の研修に職員は参加し、ミーティング時に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来るだけ身体拘束をしないような介護を心がけています。定期的な勉強会を行う事により職員全体への禁止行為を理解している。	身体拘束についてのマニュアルが有り、具体的な例を写真で見ると勉強会を行っている。管理者は日々の支援の中で気が付いたことは、その都度指導するように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待防止についての勉強会を行い、全職員で虐待防止の認識を持つよう心がけ、何が虐待になるのか等、常に職員で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が1名おり、支援している。スタッフへの制度・運用への理解ができるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・制度改定時に家族、利用者には十分な説明をしている。理解から納得に至るように話し合っている。不明な点への問い合わせも随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは面会時に普段の様子をお伝えしながら要望が聞き出せるよう心がけている。要望、問題等があった時にはミーティングや申し送りで話し合い問題解決出来るよう努めている。	家族の意見、要望は連絡帳に記入し、職員間で共有され速やかな対応が出来るように努めている。利用者の思い、要望はコミュニケーションから汲み取ったり、家族から聞いて要望に沿えるように話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、申し送り時に自由に意見を出し合い話し合っている。代表者へは事例発生毎に報告、相談できる体制がある。(少なくとも月1回、法人全体の会議があり、近況・運営について報告する機会がある。)	カンファレンスや申し送り時に職員には意見や提案を出して貰っているが、日頃から職員の意見、要望の把握に努めて前向きに検討し、反映されるように応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が週何度かホームを訪れ職場環境を把握している。県主催の研修等、積極的に参加させていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修など施設外研修に参加している。又施設内研修も不定期だが案内があり、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修参加時に他事業所との交流があり相互の情報共有・ネットワーク作りに活動している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学と本人面談を度々行い、利用者と職員がまず顔馴染みになる機会を作っている。思い出の品を持ってきていただきその方の歴史を理解し不安をなくすよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学と本人面談を行い、利用者と職員がまず顔馴染みになる機会を作っている。会話からアセスメントを得て利用開始時に本人がすぐに生活になじめるような環境作り心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談記録やアセスメントシートを把握して要望を収集し、ケアプランを作成している。介護サービスのみならず、連携している医師との医療サービスや市町村等の連携など法的サービスも受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に過ごすことをモットーに日常生活では先輩である利用者様からスタッフはたくさんの事を教えていただき、できることをみんなで共有する事によりお互い支え合う関係を保っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時利用者の近況を話し、家族の思いを聞いたり、ホームからも相談を持ちかけたりして共に支援できるようなところがけている。又、TELにて体調の良し悪しを随時報告し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去に併設のデイサービスに通っていた方など、時折訪問し、交流を行っている。	以前通っていた施設を訪問したり、家族の協力で自宅に帰ったり、墓参り、喫茶店に出掛けている。また、友人の訪問の際は居室やフロアで一緒に過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者が活躍できる場面を見つけ、そこから利用者同志がお互いのことを知ることや、かつて得意としてきた事を皆で話し合い、世話役を引き受けてもらったりして、孤立させず活躍の場をさりげなく提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、ご希望に応じて訪問や相談を受け入れている。ご本人・家族と交流を図り情報を共有する事で、退所後のバックアップに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや希望が自由に伝えられるようコミュニケーションを多く持つよう心がけ、本人の意向を聞いた際はミーティング等で話し合っている。面会の際に家族に生活歴を再確認し、ご本人の思いや意向の把握に努めている。	入居時に本人、家族から「聞き取りシート」を使って、きめ細かな利用者情報を得ている。それを手掛かりに、日常の何気ない会話から思いを聞き出し、連絡ノートを介して、情報を共有している。会話の出来ない人からは、表情やしぐさから思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に利用者の生活歴や好きな物、嫌いな物を聞き日々のケアに活かせるよう配慮している。利用者本人の普段の会話の中で出た話を個人記録にも記入するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやケースカンファレンスの際に一人一人のできることや維持していきたいこと、最近の心身状態の変化等について話し合い現状把握に努め、職員全員のケアに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングを中心にケースカンファを開き、アイデアを出し合い、本人や家族やメディカルスタッフの意見を考慮してモニタリングし、ケアプランを作成している。	3ヶ月に一度モニタリングを職員と、医師、看護師からの報告書を基に行っている。毎月のミーティング、カンファレンスで、本人や家族の意見も取り入れて話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録に利用者様の行動、言動、身体状態の変化を記録し職員全員で情報を共有し日々の介護やケアプランの見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	有床診療所を中心とした併設施設にデイサービス、ショートステイ、有料老人ホーム等があり、常に交流を図っている。各施設と密に情報を共有し、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のボランティアの受け入れや小中学生の職場体験の受け入れで文化・趣味などの交流を図り楽しんで頂ける様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内の医療機関より各個人が週1回の訪問診療を受け、急変時なども24時間対応で診ていただいている。家族の希望で他医院(専門医)を受診している利用者もいて通院支援をしている。	医療機関が母体であるので、かかりつけ医を大部分の利用者が協力医に変えている。それぞれのかかりつけ医や専門医を受診する場合は、家族が対応しているが、可能な限り職員も付き添い、情報の連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間の連絡体制を確保。体調の変化等は随時連絡し、申し送りノートも作成して個々の体調管理に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設の有床診療所の医師、看護師からは常に情報提供を受け家族に伝えている。又、他病院へ入院した時は見舞いを兼ねて訪問し、情報収集や相談対応に努め、病状が安定した時点で受け入れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合・急変時・退院時等に看取りの指針、体制について説明している。医師、家族、各サービス関係者も含めて話し合いの場を持っている。看取りの契約を取り交わしている方もいる。医師の指示のもと看護師、職員全体で協力して取り組んでいる。	入居時に看取りも可能であることを伝えている。医師、看護師など医療体制は万全であり、職員も看取りの研修を受けている。家族との話し合いを繰り返し行い意思確認をして、今年度は、一人の看取りを行っている。職員の精神面での配慮もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、それに伴ない勉強会も行っている。緊急時、看護師が来るまでの間の初期対応は職員全員が行えるよう研修の機会を設けている。又施設内には、AEDも設置してあり、全職員が使い方も把握している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策に基づき避難誘導等の実施訓練もしている。自治会・市町村へ災害・緊急時の連絡用にホームの固定電話以外に施設用携帯、各ユニット担当者の携帯電話番号を公開し、緊急時の連絡に備えている。	避難訓練を利用者とともに、火災報知器の取り扱い方法も含めて、業者が立会いのもと昼間の想定で行っている。備蓄品は、水、缶詰などの食料、紙類が保存されている。	防災意識の高まりをみせる状況の中、避難訓練を年2回、行うことを望む。職員連絡網の整備や、できれば近隣への働きかけも行うことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為、全室個室対応とし、生活を守っている。利用者を一人の人間として尊重し、利用者の思いを汲み取った声掛けをするように心がけている。	利用者を尊重した言葉かけや対応に努めている。月に一度、接遇のチェックリストを、今回はトイレ介助についてなどとテーマを決めて行い、自らの接遇を振り返る良い機会となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、なるべく本人の希望を聞きながら対応している。利用者の返事を待つよう心がけている。要望があった場合、できる限り本人の希望に沿える様、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加を楽しむ方、静かにのんびり過ごしたい方、人それぞれに過ごしていただき、職員の都合を優先しない様、一人一人の生活リズムが保てるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿って理・美容院を利用、おしゃれ心が引き出されるように支援している。季節に応じた服装が出来るように家族にお願いして、利用者様が生き生き暮らせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にもできる限り食事の配膳を協力していただくように心がけている。食事配膳の準備の際にメニューの確認をしながら食事ができるまでの待つ時間を楽しんでいただけるようにしている。	法人の厨房で、副食が作られており、主食の米飯と朝食の惣菜は、事業所の厨房で調理されている。季節の栗ご飯などを作ったり、利用者の好みに合わせてパン食に変更したりもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間がかかっても、出来る限り、全量摂取に心がけている。利用者の体調に合わせて、粥、キザミ食、ミキサー食を提供し、必要に応じて医療スタッフと連携し栄養補助食品で補食をしていただく対応・支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔清拭を実施している。義歯は寝る前に薬剤洗浄をしている。(毎食後の口腔ケアは自立、介助にかかわらず全員に実施している。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムを把握する事により、定期的に声掛けをし失敗がないような対応を心がけている。日中・夜間のリハビリパンツ⇔オムツの切り替えなどできる限り対応している。	排泄チェック表を記入し、パターンを把握して、声をかけてトイレ誘導している。職員の粘り強い働きかけにより、紙オムツからリハビリパンツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態を咀嚼・嚥下能力に合わせて変更する、飲み物をこまめに提供するなど、水分を多くとれるよう工夫したり、看護師と情報を共有し相談しながら対応している。個々の排便チェック表を作成して、排便の回数、形体確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回を目安に入浴して頂いている。入浴を拒否する利用者には職員を変更して声掛けをしたりタイミングをはかって対応したり気分を損ねず入浴を楽しんでもらえるよう心がけている。	入浴は、週2回いつでも入ることが出来、季節のゆずやしょうぶなどを入れ楽しんでいる。湯船に入れられない利用者は、座ってシャワーを浴び、足浴をする事で、入浴と同じような気持ち良さが味わえるシャワー浴を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にすることにより、昼夜逆転にならないように支援している。睡眠パターンを把握、個々に合わせた安眠策をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報をファイルしている。常に職員は情報を共有している。服薬時には職員と利用者によって確認合っている。実際に服薬できたかの確認も注意深く見守っている。服薬によつての症状の変化も常に看護師に報告している。法人内の薬剤師もよく訪問し、服薬異常を見逃さないよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて日常生活の中から役割分担が自然に出来上がっている。レクを楽しむ人、おしゃべりを楽しむ人、散歩を楽しむ人、それぞれの楽しみも継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて日光浴を楽しんだり、ホーム周辺を散歩したりしている。季節ごとに花見・紅葉見学のドライブをして、外出支援を行っている。本人の訴えでホームで対応できないものはご家族へ支援を依頼している。	車椅子の利用者が多いが、日光浴や散歩に出かけている。春には、桃太郎神社に花見へ、秋には紅葉を見にドライブに出かけている。また、個別に、買い物に行く人がいたり、家族の付き添いで墓参りに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立て替え金で処理している。必要な物があるときには、ご家族に連絡の上、購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでもかけてもらえるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、ホームの庭で育てた花を飾ったり、フロアではソファに腰かけて一緒にTV鑑賞をするなど、心地よい空間作りに努めている。外でも、日光浴やおしゃべりなど楽しめるよう工夫している。	大きな窓に面した明るいリビングには、桃次郎と名づけられた猫がゆったりと過ごし、利用者の癒しとなっている。季節の飾りが施された広々とした空間に利用者それぞれが、お気に入りの場所で寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを配置し、仲の良い利用者同士がおしゃべりをしている。散歩のついでに花を見たり併設施設の利用者・スタッフとお話したり、交流もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には慣れ親しんだ家具を持ち込んでいただき、日常生活に安心して過ごせるような空間が整えられるようにしている。	家具や布団が自宅から持ち込まれており、安らげる居室となっている。居室で、昼食後の昼寝をする利用者もいるなど、思い思いの過ごし方をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下には手摺が設置してあり安全面にも配慮してある。自室の入り口には、表札があり、自室と他の人の部屋の区別ができるよう工夫している。		